



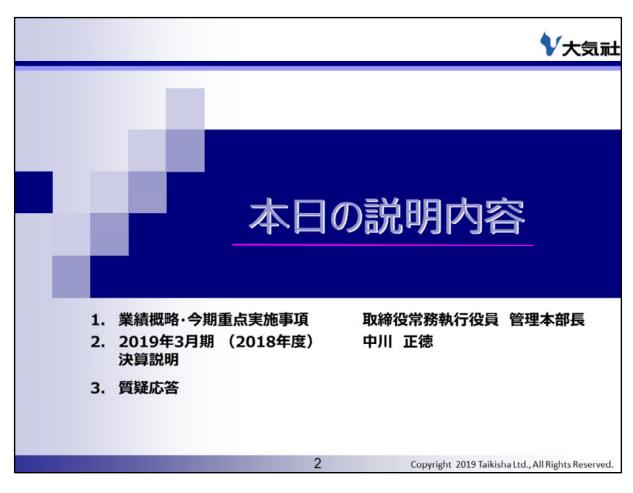
2019年3月期(2018年度)

この写真は大気社の海外拠点があるマレーシアの、 マラッカ海峡です。

決算説明会資料

2019年5月20日

Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.



管理本部長の中川です。

これより、2019年3月期決算につきましてご説明いたします。
では、次のページ3ページをご覧ください。



まず、2019年3月期業績、そして2020年3月期の予想と重点実施事項について触れさせていただきます。

では4ページをご覧ください。





2019年3月期業績

連結業績

単位:億円

	期初予想 A	実績 B	差異 B-A	*新予想 C	差異 B-C
受注工事高	2,150	2,418	268	2,150	268
完成工事高	2,200	2,254	54	2,200	54
経常利益	130	150	20	130	20
(同率)	5.9%	6.7%	0.8%	5.9%	0.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	75	88	13	62	26
(同率)	3.4%	3.9%	0.5%	2.8%	1.1%

^{*}第2四半期決算時に修正

【経常利益】

第2四半期会計期間において、Geico社の米国の大型案件における採算悪化の影響があったが、塗装事業の下期以降の回復や、環境システム事業の好調な国内業績により、期初予想に対し上振れ。

【親会社株主に帰属する当期純利益】

特別利益として投資有価証券売却益を計上したものの、特別損失としてGeico社におけるのれんの償却額を計上したことから、特別損益がマイナスとなる影響を受けたが、期初予想に対し上振れ。

4

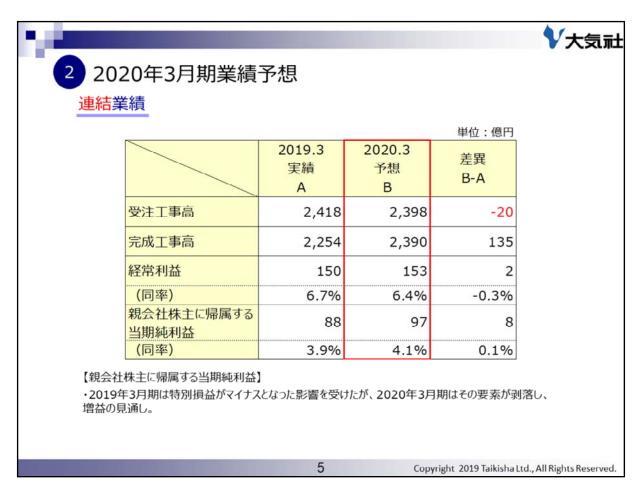
Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

2019年3月期の当社グループにおける市場環境につきましては、国内市場は電子部品メーカーなどによる投資が好調に推移し、首都圏におけるオフィスビルの建設需要も高い状況が続きました。一方、海外市場は米中貿易摩擦などの影響による不透明感が続いております。

そのような状況のもと、全ての項目で期初予想を上回る結果となりました。

そのなかで、経常利益については第2四半期会計期間において、Geico社の米国の大型案件における採算悪化の影響がありましたが、下期以降の塗装事業の回復や、環境システム事業の好調な国内業績により、期初予想を上回りました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益については、特別利益として投資有価証券売却益を計上したものの、特別損失としてGeico社におけるのれんの償却額を計上したことから、特別損益がマイナスとなる影響を受けましたが、こちらも期初予想を上回りました。



次の5ページは2020年3月期の業績予想となります。

2019年3月期の実績と比較しますと、受注に関してはほぼ横ばい、完成工事高及び経常利益については微増で見ております。

親会社株主に帰属する当期純利益については、2019年3月期は先ほどお伝えした通り、特別損益がマイナスとなった影響を受けましたが、2020年3月期はその要素が剥落し、増益となる見通しです。

		▼大気	沅
	3 今期重点第	E施事項	
	方向性	重点実施事項	
Ę	事業基盤の強化	・新規顧客開拓の推進	
	競争力の向上	・研究所の拡充・活用による、顧客ニーズ対する技術開発力の強化と、技術の見える化による提案力の強化	
	収益性の向上	・IT活用による、設計・積算業務の自動化の推進	
Ę	事業領域の拡大	・植物工場事業に関する取組の拡大 ・未進出国における案件を受注し、今後の足掛かりとする ・グループ会社との連携強化や研究所の活用により航空機や 鉄道車両などの自動車以外向け塗装設備事業を拡充	
	環境対応	・排気処理装置などの環境ビジネスへの取り組み強化	
		6 Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reser	rved.

続いて、6ページ、7ページには、今期の重点実施事項をお示ししております。

中期経営計画の基本方針に則り、各施策を着実に実行してまいります。

続いて9ページをご覧ください。



3 今期重点実施事項

方向性	重点実施事項
人材戦略	・柔軟な働き方を可能にする制度の拡充や処遇の向上、勤務時間の低減など、会社の魅力を高める施策による人材の確保・キャリアプラン制度の浸透による、社員個々の能力伸長とやる気の向上を図り、生産性の向上を実現・それぞれの海外子会社の状況に合わせた社員の確保と、多様な人材の活用による人的資源と組織力の増強
ガバナンス	 ・取締役会の経営監督機能の向上、資本コストを意識した経営の実践などによるコーポレートガバナンス体制の強化 ・国内外における内部統制体制の強化 ・法務リスク、情報セキュリティ、コンプライアンスなどに関し、グローバルなリスク管理体制の拡充



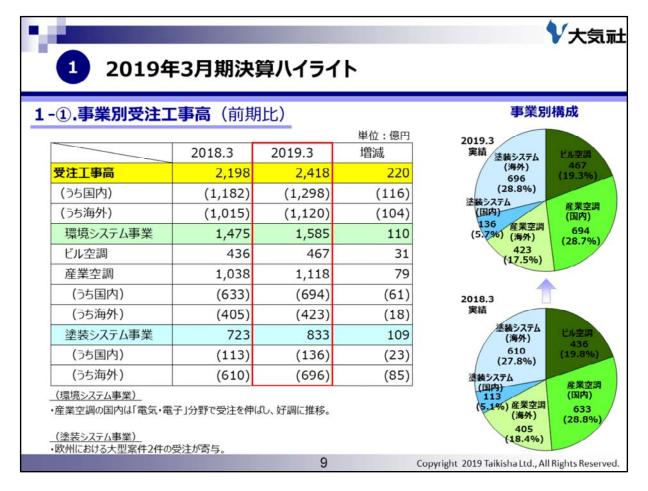


2019年3月期 (2018年度) 決算説明

- ① 2019年3月期決算ハイライト
- ④ 主な受注工事・完成工事・繰越工事
- ② 環境システム事業の業績
- ⑤ 2020年3月期の業績予想
- ③ 塗装システム事業の業績
- ⑥ 株主還元
- 1. 業績数値等は原則、連結ベースです。個別ベースの場合のみ、各ページのタイトルに(個別)と記載しています。
- 2. 業績数値等は原則、外部顧客に対する取引金額となっており、セグメント別の営業利益・経常利益についてのみ、 内部 取引高を含む数値となっております。
- 3. 業績予想数値は、発表日現在において、入手可能な情報に基づき推計した見込みです。 経済動向、業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度の改正、その他多様なリスクや不確実性を 含んでいます。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

8

Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

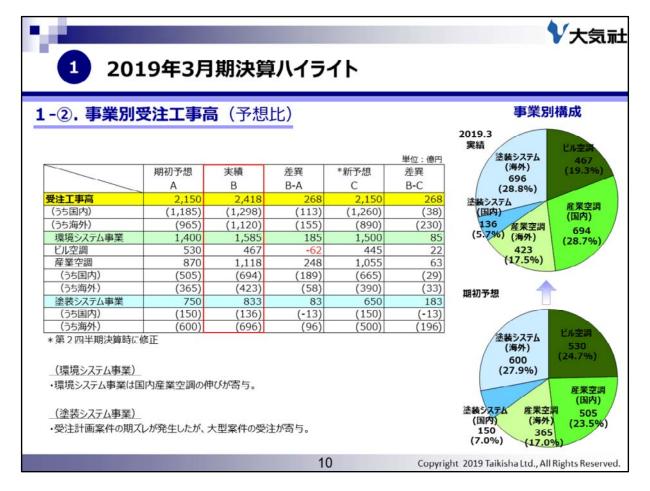


9ページは事業別の受注工事高を前期比でまとめています。

全社としましては220億円増加し、2,418億円となりました。

そのうち、環境システム事業では、国内産業空調が好調に推移したことにより110億円増加し、1,585億円となりました。

また、塗装システム事業は、欧州で大型案件2件を受注したこともあり 109億円増加し、833億円となりました。



10ページは同じく受注工事高について、期初予想比で示しております。

全社では、期初予想を268億円上回りました。

そのうち、環境システム事業は国内産業空調の伸びが寄与し、期初予想を185億円上回りました。

また、塗装システム事業は、上期受注計画案件の期ズレが発生しましたが、下期の大型案件の受注が寄与し期初予想を83億円上回る結果となりました。

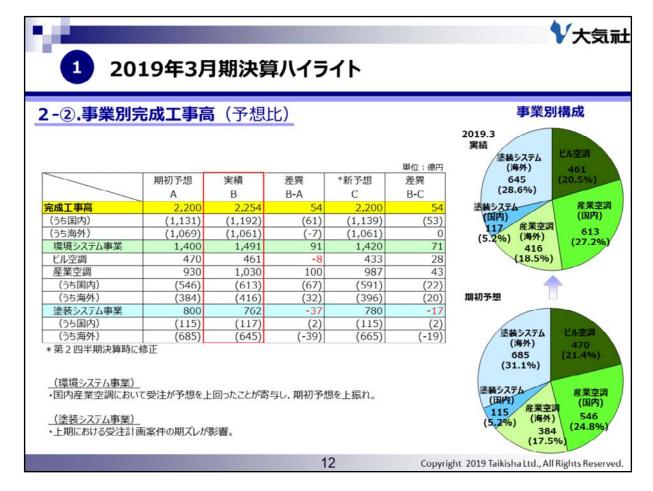
①. 事業別完成	工事高(前其	月比)		事業別構成
	2018.3	2019.3	単位:億円 増減	2019.3 実績
記成工事高			-64	塗装システム (海外) ビル空間
Telebraham Company Company	2,318	2,254		645 (28.6%)
(うち国内)	(1,157)	(1,192)	(35)	(28.6%)
(うち海外)	(1,161)	(1,061)	(-100)	塗装システム (国内
環境システム事業	1,399	1,491	92	(国内) 産業空調 613 (海外) (27.2
ビル空調	458	461	3	(5.2%) (27.2
産業空調	940	1,030	89	(18.5%)
(うち国内)	(569)	(613)	(44)	
(うち海外)	(371)	(416)	(44)	2018.3 宝结
塗装システム事業	919	762	-157	塗装システム ビル空間
(うち国内)	(129)	(117)	(-12)	(海外) 458 789 (19.8%
(うち海外)	(789)	(645)	(-144)	(34.1%)

11ページでは事業別完成工事高を前期比で示しております。

全社では64億円減少し、2,254億円となりました。

そのうち、環境システム事業は産業空調が国内外ともに、期初の繰越工事高が増加したことや好調な受注の影響により完成工事高は、92億円増加し1,491億円となりました。

一方、塗装システム事業は157億円減少し762億円となりましたが、これは前期に米国の自動車塗装の大型案件2件が売上に大きく寄与したことによる反動減です。



12ページは同じく完成工事高を予想比でまとめています。

全社では、期初予想を54億円上回りました。

そのうち、環境システム事業は国内産業空調において受注が予想を上回ったことが寄与し、完成工事高は期初予想を91億円上回りました。

一方、塗装システム事業は、上期における受注計画案件の期ズレの影響などにより、期初予想を37億円下回りました。

					▼大気社
201	19年3月期決算/	\イライト	`		
3-①. 事業別和	利益 (前期比)			単位:億円	
		2018.3	2019.3	増減	
	営業利益	121	140	18	
-	(同率)	5.3%	6.2%	1.0%	
	環境システム事業	115	131	15	
	(同率)	8.3%	8.8%	0.5%	
	塗装システム事業	9	14	5	
	(同率)	1.1%	2.0%	0.9%	
	経常利益	130	150	20	
	(同率)	5.6%	6.7%	1.1%	
	環境システム事業	118	135	16	
	(同率)	8.5%	9.1%	0.6%	
	塗装システム事業	11	16	5	
	(同率)	1.3%	2.2%	0.9%	
・国内市	ンステム事業) 場の豊富な需要の取り込みによる完 システム事業)	民成工事高の増加	心、採算性重視	の受注活動やコ	スト削減が寄与。
	F3月期は米国子会社のプロジェクト F3月期は上期においてGeico社のタ		江クトで採算が悪	化したものの、下	期以降は回復。
		13		Copyright 2019	Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

13ページは事業別利益を前期比でまとめています。 経常利益は全社ベースでは20億円の増加となり、150億円となりました。

そのうち、環境システム事業は、国内市場の豊富な需要を取り込んだことによる完成工事高の増加に加え、採算性重視の受注活動やコストダウンに取り組んでまいりました結果、経常利益は16億円増加し、135億円となりました。

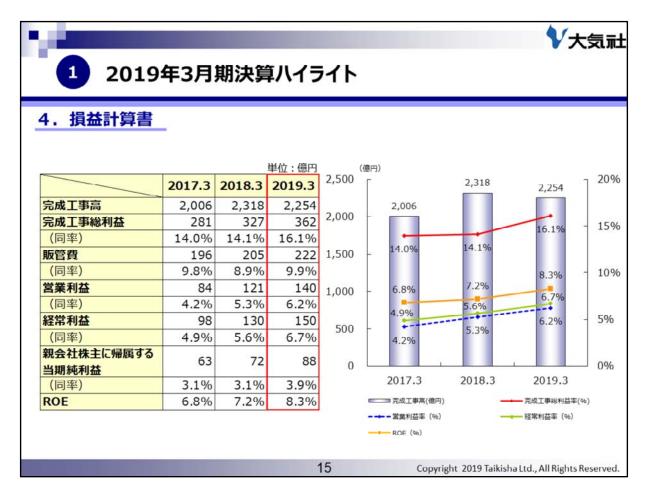
塗装システム事業は、2018年3月期は米国子会社のプロジェクトでの採 算悪化の影響があり、また、2019年3月期は上期においてGeico社の米国 におけるプロジェクトで採算が悪化しました。

下期以降は同プロジェクトにおいて見込んでいた原価において、一部戻りがあったことや、採算性の高い案件の取り込みなどにより回復し、通期の経常利益は5億円増加し、16億円となりました。

事業別利益(***		単位:億円
	期初予想	実績	差異	*新予想	差異
	Α	В	B-A	С	B-C
営業利益	123	140	17	123	17
(同率)	5.6%	6.2%	0.6%	5.6%	0.6%
環境システム事業	105	131	26	124	7
(同率)	7.5%	8.8%	1.3%	8.7%	0.1%
塗装システム事業	26	14	-11	6	8
(同率)	3.3%	2.0%	-1.3%	0.8%	1.2%
経常利益	130	150	20	130	20
(同率)	5.9%	6.7%	0.8%	5.9%	0.8%
環境システム事業	107	135	28	128	7
(同率)	7.6%	9.1%	1.5%	9.0%	0.1%
塗装システム事業	27	16	-10	5	11
(同率)	3.4%	2.2%	-1.2%	0.6%	1.6%
*第2四半期決算時に 塗装システム事業の上期に			システム事業で補い	、全体では期初予	

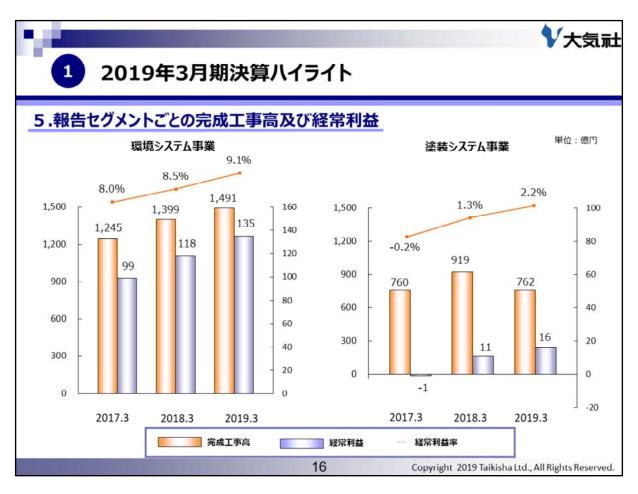
14ページでは同じく利益について予想比でまとめています。

塗装システム事業の上期における損失による影響を、好調な環境システム事業で補い、全体では期初予想を20億円上回る結果となりました。

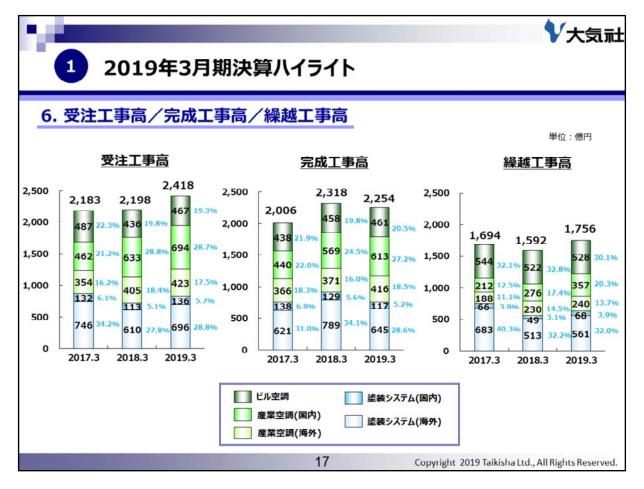


15ページは、3ヶ年の業績の推移を表しています。

ROEにつきましては、2019年3月期において8%を超える結果となりました。

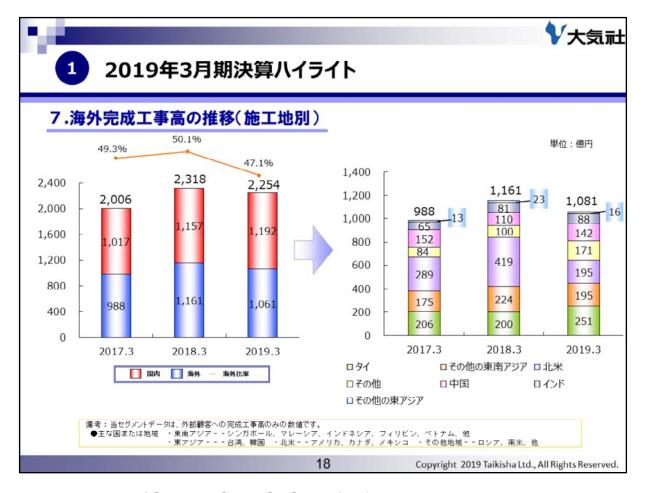


16ページは先ほどご説明しました事業ごとの完成工事高、経常利益額の推移をグラフで示しています。ご参照ください。



17ページは、受注工事高・完成工事高・繰越工事高の事業分野ごとの内訳と推移を示しております。

そのうち、国内産業空調は好調な受注に伴い、繰越工事高は増加傾向が続く形となりました。

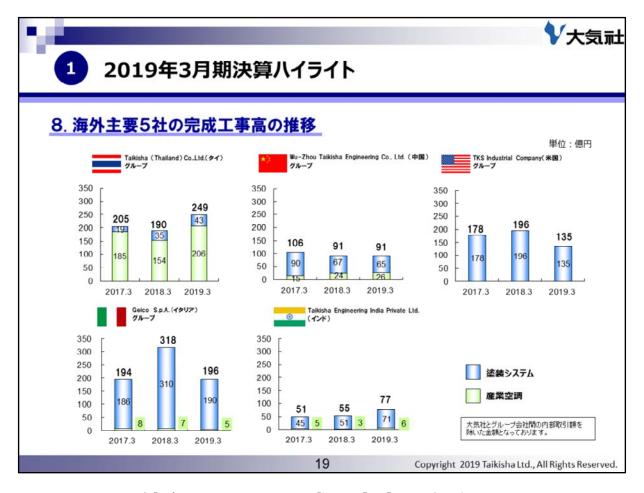


18ページは、海外の完成工事高の推移についてです。

左のグラフは国内海外の内訳と海外比率の推移を示しています。

オレンジ色の折れ線で示す海外比率は前期の50.1%より3.0ポイント 減少し、47.1%となりました。

これは主として、米国の自動車塗装の減少によるものです。



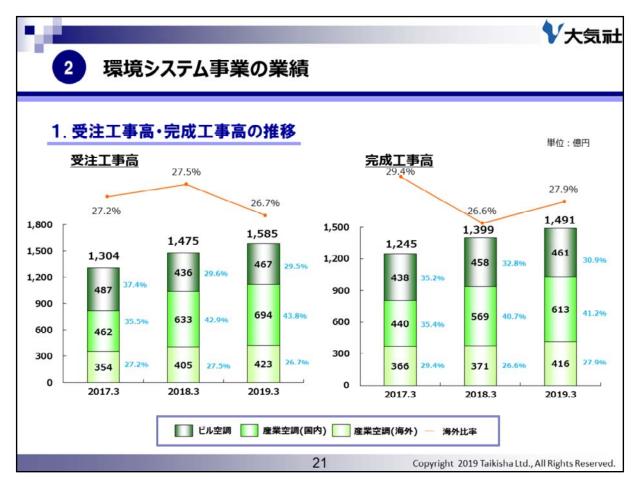
19ページは、海外主要5社の完成工事高の推移を示しております。

タイでは2018年3月期に大型案件の受注があったことなどにより、 2019年3月期の完成工事高は増加しました。

繰り返しになりますが、北米の子会社と、Geico社は、2018年3月期にそれぞれ米国における自動車塗装の大型案件が寄与したため、2019年3月期は反動減となりました。



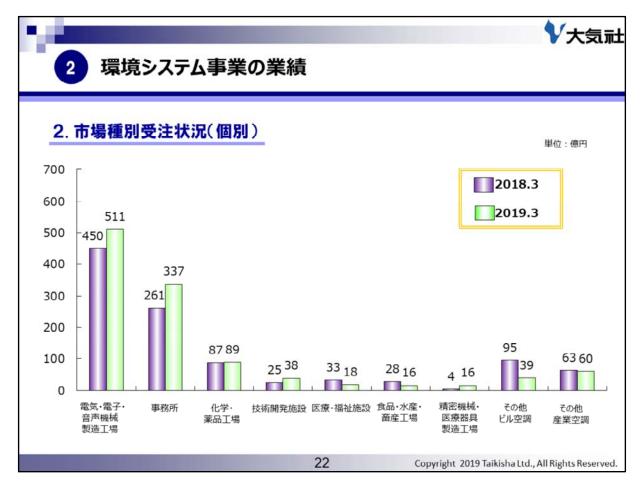
20ページは連結の貸借対照表となります。ご参照ください。



21ページからは、環境システム事業の業績についてご説明いたします。

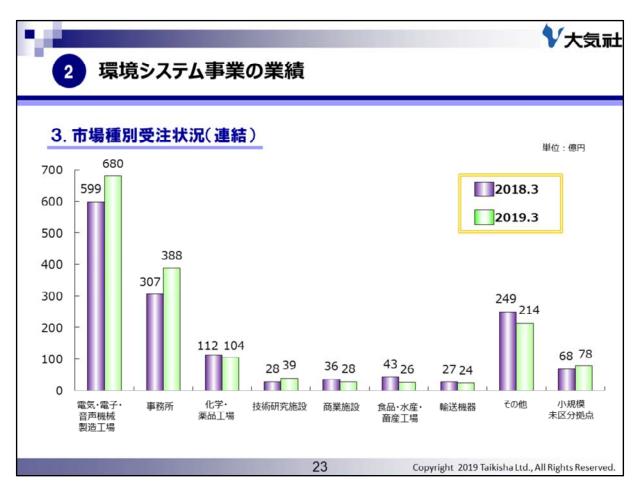
左のグラフは受注高、右のグラフは完工高について事業分野別に推移 を示しております。

そのうち、受注の海外比率は国内での受注拡大にともない、減少に転じました。

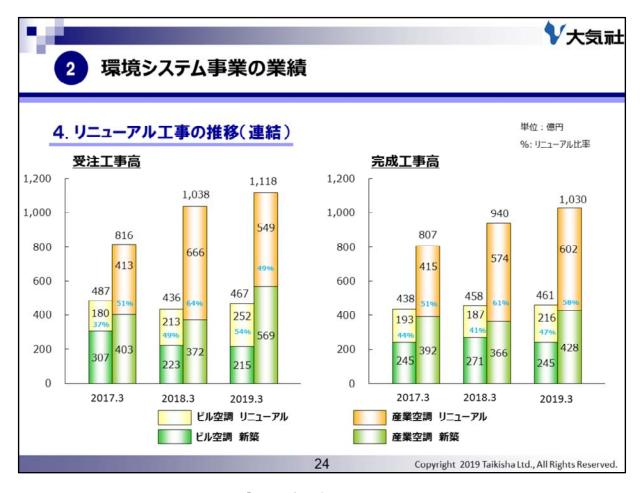


22ページは、「個別」の市場種別受注状況となります。

好調な「電気・電子」分野、「事務所」分野において受注が拡大しました。



23ページは、環境システム事業の「連結」の市場種別受注状況となります。ご参照ください。



24ページはリニューアル工事の推移です。

まず、受注工事高については、2019年3月期の産業空調は前期に大型リニューアル案件の受注があった反動減となりましたが、新築の大型案件の受注により産業空調全体としては前期を上回りました。

完成工事高においてはビル空調、産業空調ともに増加しました。

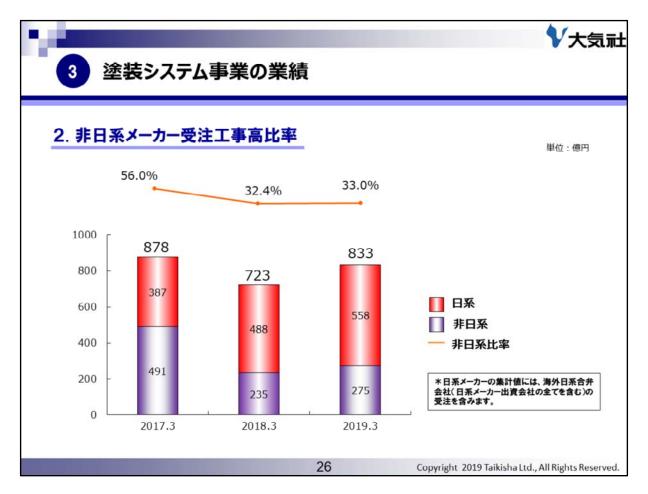


25ページからは塗装システム事業についての説明となります。

受注工事高は、2017年3月期は米国でGeico社による大型案件の受注がありました。

2018年3月期はその反動減となりましたが、2019年3月期は同じく Geico社による欧州での大型案件2件の受注が寄与しました。

一方、完成工事高については、2018年3月期は繰り返しとなりますが、北米の子会社と、Geico社の米国における自動車塗装の大型2案件が寄与しました。



26ページは非日系自動車メーカーからの受注工事高比率についてです。

2017年3月期はGeico社が米国で非日系の大型案件を受注したことにより高い数値となっておりますが、2018年3月期は大きく反動減となりました。

2019年3月期はGeico社が欧州で受注した非日系の大型案件2件が寄与しました。



27ページから29ページは計上金額が10億円以上となった、受注・売上・繰越案件についてまとめております。ご参照ください。





4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

2.10億円以上の<mark>完成工事</mark> 全32件(664億円)

	10億円以上の件数(工事・市場種別)							
			事務所	5件				
			医療·福祉施設	1件				
	国内 295 億円	16件	宿泊施設	1件				
完成工事高			電気·電子	6件				
元队工争向			精密機械	1件				
合計 32 件			自動車	2件				
(CCA (#III)			商業施設	1件				
(664 億円)			電気·電子	1件				
	海外 368 億円	16件	化学·薬品·石油工場	1件				
			自動車	12件				
			航空機	1件				

28

Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.





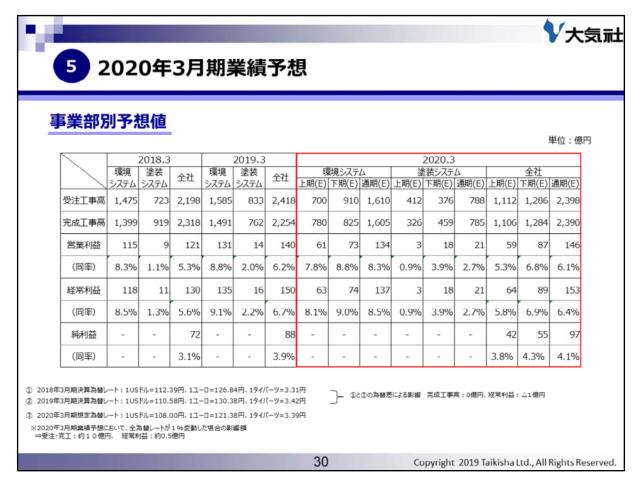
4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

3.10億円以上の<mark>繰越工事</mark> 全 32 件 (941億円)

10	の億円以上の何	繰越工事	内 2019年度 完成予定		
			事務所	11件	4件
	国内 563億円 22件		医療·福祉施設	1件	1件
		学校·教育施設	1件	1件	
编辑工事专		20/14	文化·娯楽	1件	1件
<u>繰越工事高</u>		2217	行政施設	1件	_
合計 32 件			電気·電子	5件	5件
			自動車部品	1件	1件
(941億円)			建設機械	1件	_
			商業施設	1件	-
	海外 377億円	10件	電気・電子	3件	2件
		<u>8</u> 円	自動車	6件	1件

29

Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.



30ページからは、2020年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。

想定為替レートにつきましては、スライド下部に記載しております。

また、為替差による影響についても記載しておりますので、合わせてご確認ください。

事業分野ごとの内訳につきましては、次ページよりご説明いたします。



	単位: 億									
	2019.3 実績 A 上期 下期 通期			2020.3 予想 B 上期 下期 通期			差 <mark>異</mark> B-A			
							上期 下期 通		通期	
受注工事高	1,185	1,233	2,418	1,112	1,286	2,398	-73	52	-20	
(うち国内)	(756)	(542)	(1,298)	(577)	(728)	(1,305)	(-179)	(186)	(6)	
(うち海外)	(428)	(691)	(1,120)	(535)	(558)	(1,093)	(106)	(-133)	(-27)	
環境システム事業	884	701	1,585	700	910	1,610	-184	208	24	
ビル空調	252	214	467	190	271	461	-62	56	-6	
産業空調	632	486	1,118	510	639	1,149	-122	152	30	
(うち国内)	(443)	(250)	(694)	(320)	(379)	(699)	(-123)	(128)	(4)	
(うち海外)	(188)	(235)	(423)	(190)	(260)	(450)	(1)	(24)	(26)	
塗装システム事業	300	532	833	412	376	788	111	-156	-45	
(うち国内)	(60)	(76)	(136)	(67)	(78)	(145)	(6)	(1)	(8)	
(うち海外)	(240)	(456)	(696)	(345)	(298)	(643)	(104)	(-158)	(-53)	

(環境システム事業部)

- ビル空調は旧耐震基準のビルの建て替え・リニューアル、再開発等のニーズが存続する見込み。
- 国内産業空調は電子部品メーカーが、第5世代移動通信システム(5G)や自動車の電装化に合わせ投資を継続する見込み。
- 海外産業空調は日系メーカーによる設備投資回復の見通しについては引き続き不透明感があるものの、需要は底堅く推移する見込み。

(塗装システム事業部)

- 2019年3月期に欧州で大型案件の受注があったことにより、2020年3月期は反動減。
- 北米・欧州・日本などで設備更新投資、中国・インドなどで増産投資が継続する見込み。

31

Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

まず、受注工事高につきましては、全社で2,398億円となる見込みです。 市場環境については、国内においては、オフィスビル需要は当面緩やかに縮 小する可能性があるものの、旧耐震基準のビルの建て替え・リニューアル、再 開発等のニーズは存続するため、底堅く推移すると考えております。

また、製造業の牽引役の一つである電子部品メーカーは、第5世代移動通信システム(5G)や自動車の電装化に合わせ投資を継続すると見ております。

一方、海外においては、日系メーカーによる設備投資回復の見通しについては引き続き不透明感があるものの、需要は底堅く推移する見込みです。

また、塗装システム事業は、2019年3月期に欧州で大型案件の受注があったことにより、2020年3月期は反動減となる見通しですが、乗用車向けでは北米・欧州・日本などで設備更新投資、中国・インドなどで増産投資が継続する見込みです。



32ページは完成工事高となります。

全社では2019年3月期に比べ、135億円増加の2,390億円となる 見込みです。

要因としましては、ビル空調事業で大きく増加する見通しです。



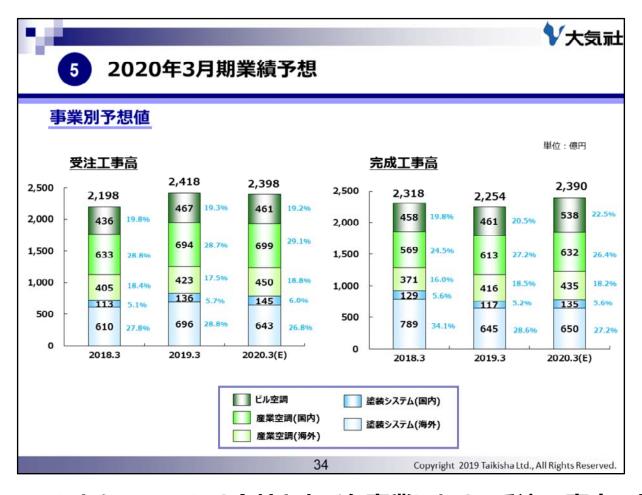
33ページは利益についてです。 経常利益については、全社で153億円を見込んでおります。

環境システム事業は2019年3月期に比べ、完成工事高は増加するものの、労務費・材料費が上昇傾向にあることや、比較的採算性の高いリニューアル工事が占める割合が減少することなどにより利益率は低下する見込みです。

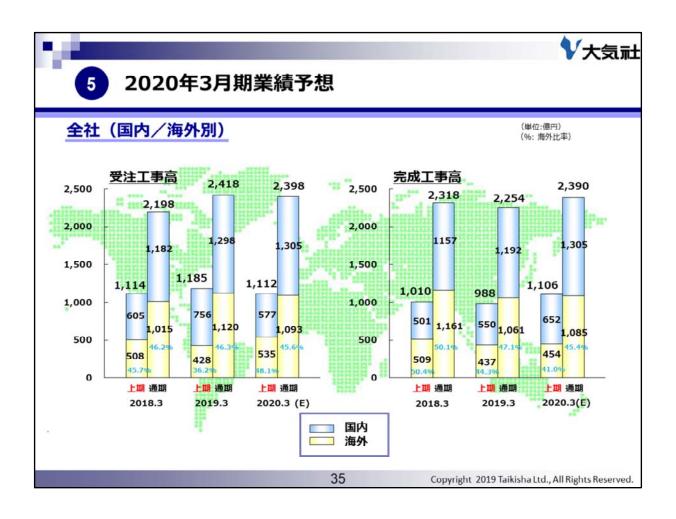
塗装システム事業では、2019年3月期上期にGeico社における北米の自動車塗装案件で発生した損失からの回復により、増益となる見通しです。

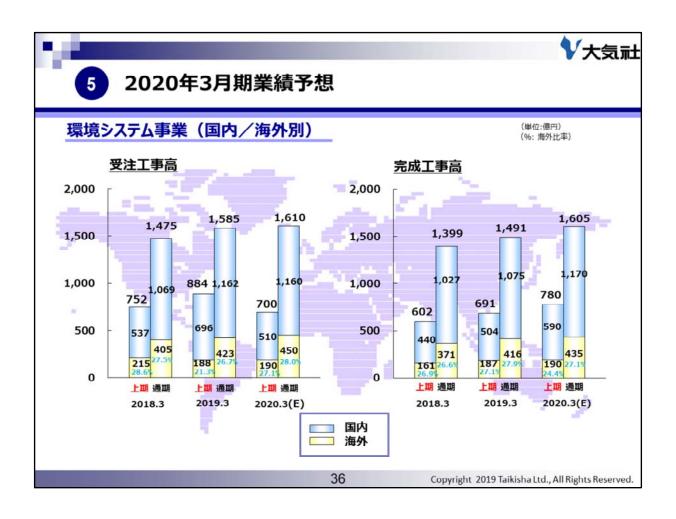
なお、2019年3月期下期については、同Geico社のプロジェクトにおいて 見込んでいた原価のうち、一部戻りがあったことや、採算性の高い案件の取り 込みがあったことから、通常より高い利益率となっております。

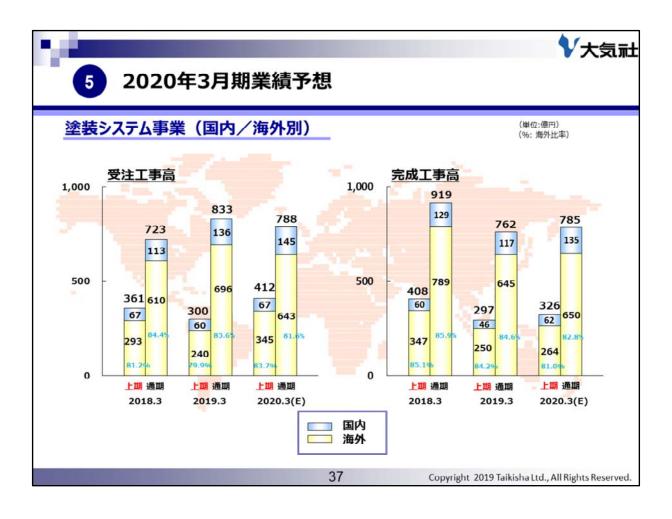
純利益につきましては、2019年3月期は冒頭お伝えした通り、特別損益がマイナスとなった影響を受けましたが、2020年3月期はその要素が剥落し、8億円の増益となる97億円を見込んでおります。



34ページから37ページは全社および各事業における受注工事高、完成工事高の業績予想をお示ししておりますのでご参照いただければと思います。



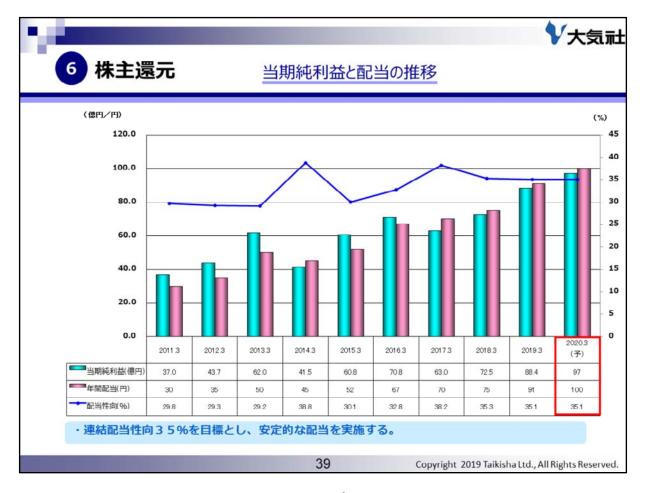




▼大気社									
6 株主選	是元 自己株式の取得・消却								
取得実績	<u>消却実績</u>								
実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)		
2005年12月	40	1,933	77	2008年 8月	1,200	1,593	1,912		
2006年 2月	597	1,780	1,062	2018年 2月	1,700	2,443	4,154		
2006年7,8月	500	1,401	700				.,		
2011年 8月	300	1,576	472						
2012年11月	600	1,614	968						
2013年12月	800	2,170	1,736	<u>処分実績</u> (E	SOPICT)				
2015年 5月	680	3,245	2,206	実施年月	株数	単価	金額		
2016年11月	356	2,805	999	X 11 / 1	(千株)	(円)	(百万円)		
2017年11,12月	136	3,654	499	2013年 2月	180	1,860	334		
			38	3 Сор	yright 2019 Tai	kisha Ltd., All R	ights Reserved.		

38ページは、自社株式の取得・消却実績についてご説明いたします。

基本方針としましては、資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、自社株取得・消却を弾力的に実施していきます。



39ページにおいては、配当についてご説明いたします。

連結配当性向35%を目標とし、これまで通り安定的な配当を実施することを基本方針といたします。

2019年3月期につきましては、この方針に基づき1株当たり91円での実施としました。期初公表値の77円からは、14円増加した配当となります。

なお、2020年3月期の年間配当は、1株につき100円を予定しております。

以上を持ちまして、決算の説明とさせていただきます。

ご清聴いただき、ありがとうございました。



将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の 判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することが あり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものでは ありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された 情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願い いたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社 管理本部 企画・広報課

40

Copyright 2019 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.